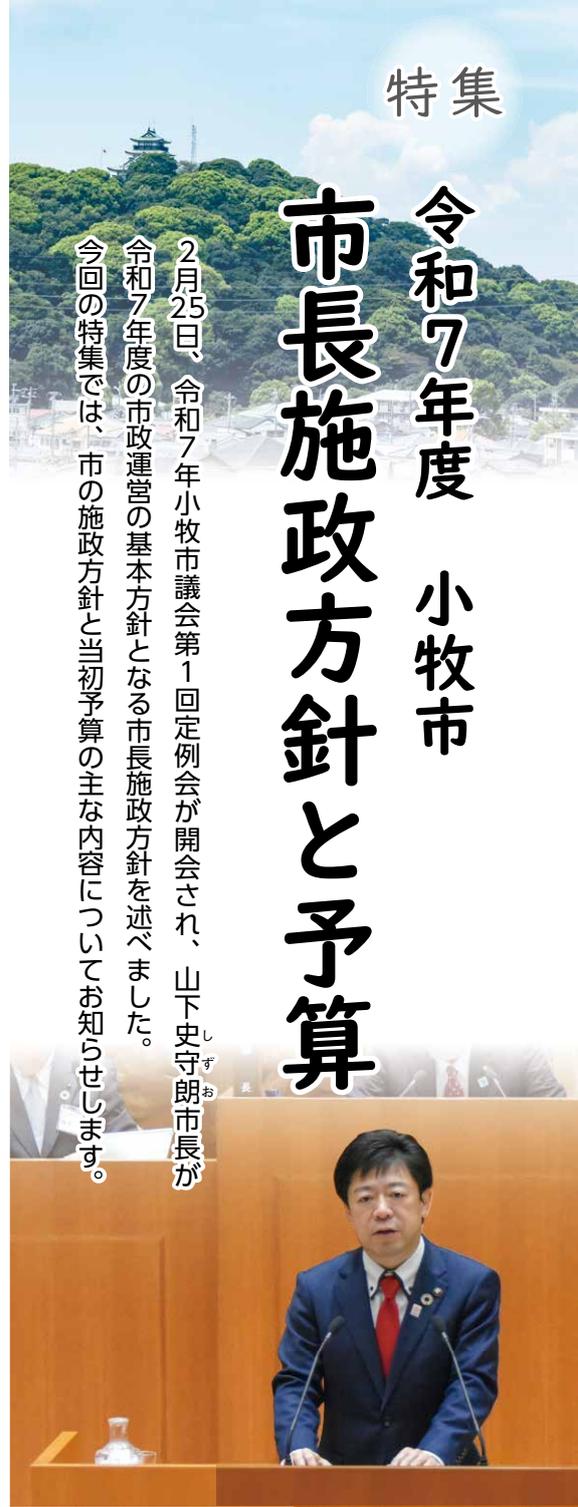


令和7年度 小牧市

市長施政方針と予算

2月25日、令和7年小牧市議会第1回定例会が開会され、山下史守朗市長が令和7年度の市政運営の基本方針となる市長施政方針を述べました。今回の特集では、市の施政方針と当初予算の主な内容についてお知らせします。



はじめに

令和7年小牧市議会第1回定例会の開会にあたり、市政運営に係る私の所信を申し述べますとともに、令和7年度当初予算案につきまして、主要な施策とその概要をご説明申し上げ、議員各位、並びに15万市民の皆様をはじめ、小牧市にかかわるすべての方々にご理解とご協力をお願いいたしたいと存じます。

さて、私が市民の皆様のご信任を賜り、4期目の市政を担わせていただくこととなり、2年が経過したところであります。私は市長

就任以来、「**改革と創造の市政**」、**「チャレンジする市政**」を掲げ、小牧市の未来を見据えた様々な改革と明るい未来につながる新たなチャレンジに全力を注ぎ、信念とスピード感をもって全力で市政の運営にあたってまいりました。

私の任期は15年目に入るわけですが、これまでの間、時代の変化は非常に目まぐるしく、我が国の少子高齢化・人口減少の進行はもとより、近年では新型コロナウイルス感染症の世界的流行、世界各地の戦争や権威主義国の台頭、先進諸国の政治の分断、また世界的な気候変動と夏の猛暑や、AIをはじめとした情報技術革新・デジ

タル化の著しい進展、そして我が国においては、ようやくデフレを脱却したものの人手不足が顕在化し、円安・インフレが加速するなかで、いよいよ30年間続いた超低金利政策が見直され、金利のある世界へと、バブル崩壊以降の我が国経済は大きな転換期に差し掛かっている状況であります。

令和7年は終戦から80年、昭和の元号では100年にあたり、小牧市は1月1日に**市制施行70周年**を迎えました。

小牧町・味噌村・篠岡村の1町2村が合併して小牧市が誕生した昭和30年、当時の人口は現在の4分

の1にも満たない3万2327人でありました。菜どころ、米どころと言われ、豊かな田園が広がっていましたが、社会資本の充実には農業だけでは限界があり、農業依存からの脱却と財政基盤の確立が課題とされ、諸施策が打ち出されました。そのなかでも昭和31年に制定された工場誘致条例は代表的なものであり、現在の内陸工業都市小牧の礎を築いたといっても過言ではありません。昭和38年に北里村と合併して現在の市域が形作られ、高度経済成長を経て、人口・世帯数・製造品出荷額も順調に伸び、都市機能が整備され、市民生活が充実したのは皆様もご存じのとおりであります。

そして、この記念すべき市制施行70周年となる節目の年に、改めて、行政のトップリーダーとして市民の皆様のご期待にお応えしていかなければならないという強い使命感を持って、本市の更なる発展と諸課題の解決に真摯に取り組んでまいれる所存であります。

10年前の平成27年の市制60周年

記念式典では、「こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、支えあう、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまち」を小牧市全体で目指し、市内外に発信していくため、「こども夢・チャレンジNo.1都市宣言」を市民の皆様とともに行いました。そして、宣言を契機とし、次代を担うこどもたちの様々なチャレンジを市民みんなで応援することで市民がつながるまちづくりを推進してまいりました。「こまきこども未来館」は開館から3年を迎えた昨年12月に、来館者が延べ100万人を達成しました。こどもの成長を見守り、幅広い体験ができる場所として、小中学生や親子連れに好評を



▲来館者 100万人を達成したこまきこども未来館ワークショップには多くのこどもが参加します

博しています。

今年の市制70周年記念事業では、コンセプトを「70年の挑戦 つなごう未来へ 夢とキラめくこまきびと」とし、市民の皆様とともに様々な記念事業を予定しておりますが、特に、小牧市としてこれまで力を注いでまいりました2つの大きなテーマである「健康」と「環境」を取り上げ、さらに精力的に取組を加速する年としてまいりたいと存じます。

私は昨年の施政方針においても、SDGs 未来都市に選定された尾張地域初の自治体として、誰一人取り残さない、小牧市の実現に十分に意を配すと申し上げ、持続可能で多様性と包摂性のある市政を推進してまいりました。

全国の自治体がどれだけ「経済・社会・環境」のバランスが取れた発展につながっているかを数値化した、日本経済新聞社の「第4回全国市区SDGs 先進度調査」の総合ランキングが令和7年1月に発表され、小牧市は全国815市区中、総合18位の評価をいただき

SDGsのさまざまな取り組みが評価され、「全国市区SDGs 先進度調査」で全国総合18位になりました。



▲SDGsの推進に関する包括連携協定

2年前の前回から大きく順位を上げております。このことは「こども夢・チャレンジNo.1都市宣言」を旗印に、本市独自の「こまきこども未来大学」や「駒来塾」など、すべてのこどもたちが夢を育みチャレンジできる環境整備にまち全体で取り組んできたことをはじめとして、未来に向けた各種施策が総合的に評価されたものと認識し、引き続き、持続可能で多様性と包摂性のある小牧市の実現に取り組んでまいります。

市政運営にあたっては、市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画」

進計画第2次基本計画」に基づいて、計画的に進めてまいります。

「小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画」は、自治基本条例に基づき、小牧市民憲章に掲げる理想のまちの実現に取り組んでいくために策定したものであり、昨年4月から本格的にスタートさせております。

まちづくりを進めていく上での機軸となる「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」の3つの都市ビジョンと、市長の強いリーダーシップと責任のもと、優先的に経営資源を投入し強力に押し進めていく3つの戦略からなる「市政戦略編」、行政が着実に実施していく29の基本施策からなる「分野別計画編」、それらの施策の推進と一体で取り組む行財政改革の体系を示した「自治体経営編」に基づき、DXの推進やカーボンニュートラルの実現などを新たに横断的な視点として掲げ、時代の潮流に対応した市政運営に取り組んでいきます。

市制70周年記念事業

市制70周年の記念すべき節目を小牧市に関わるすべての皆様とともに祝いするため5月18日に、市民会館で市民参加型の市制70周年記念式典を挙行了いたします。

各種の記念事業であります。重点的に取り組む「健康」と「環境」のうち、健康につきましては、これまで、本市は健康経営優良法人の認定を2023年から2025年まで取得し、市としても自らすすんで健康経営に取り組むとともに、企業経営の活性化と成人期の健康づくりの取組を充実するため、市内企業の健康経営をバックアップしてまいりました。また、市民の健康づくりに向けて、独自の人間ドック制度や健康いきいきポイント制度の創設、各種検診・予防接種の充実、ウォーキングアプリ「alko」の開発、フレイル予防の実施、高齢者外出支援につながるこまき巡回バス「こまくる」の拡充、口腔ケアの充実などに取り

組み、市民の健康づくりを応援してまいりました。

そして、地域協議会の設立・運営支援、支え合いいきいきポイント制度の創設、ふれあい・いきいきサロンの設立・運営支援、こまき市民交流テラス「ワクティブこまき」の開設など、市民との協働によるまちづくりを進め、支え合いの地域づくりに取り組んでまいりました。昨年は、小牧市福祉福祉協議会とともに、民間事業者と連携し、公園や高齢者サロンの開催場所など市内119か所で食料品などの移動販売を開始し、大変ご好評をいただいているところであります。

高齢者が増え続ける中、市民の皆様が健康づくりを一層進められ



▲市制70周年記念ポスター

小牧市民球場でプロ野球オープン戦を開催



市制70周年記念事業として、小牧市民球場で6年ぶりにオープン戦を開催。中日ドラゴンズと埼玉西武ライオンズが対戦しました。試合の前には山下市長の始球式も行われました。



るよう、健康習慣化サポート施設「ヘルスラボ・こまき」を市制70周年を記念して本年1月にラピオ5階にオープンしました。高齢者のフレイルチェックはもとより、壮年期から自らの健康に関心を持って取り組むことが重要であります

ので、食事のバランスチェックなど、こどもから高齢者まで多くの皆様にご活用いただきたいと思っております。

今後、同施設を拠点の1つとしながら市民の皆様が自ら積極的に健康づくりに取り組む、生涯にわ

たって健康でいきいきと暮らせる環境を整備し、「活力ある高齢社会（小牧モデル）」による「健康・支え合い循環都市」を目指してまいります。

環境につきましては、本市はこれまでよりサイクルの推進やごども服のリユース事業など各種施策に精力的に取り組んでおり、県内の市の中で7年連続でリサイクル率第1位となっているところであります。市制施行50周年に宣言した「環境都市宣言」に、カーボンニュートラルの実現や資源循環の推進な



ど時代に応じた内容を加え、市民の皆様とともに改めて宣言し、都市宣言を契機に、さらに人々の環境配慮型ライフスタイルへの行動変容や企業等の一層のSDGs推進などにつなげてまいりたいと思います。

記念事業の目玉の一つである「第66期王位戦第1局」の誘致につきましては、愛知県出身の棋士・藤井聡太七冠と挑戦者によるトップ棋士同士の熱戦が期待される中、対局の際に注目を集める「おやつ」についてコンテストを実施してまいります。また、王位戦に先立ち、

「(仮称)小牧将棋まつり」を開催いたします。こどもを対象とした将棋大会「小牧市長杯」や、指導対局などプロ棋士との交流を予定しております。将棋を嗜まれる方に限らず、幅広い市民の皆様にお楽しみいただけるものと思っております。ご期待ください。

学生の探求学習プログラムにつきましては、「こまき新産業振興センター」と連携し、次代を担う高校生等を対象に、スタートアップ企業をはじめ実際に起業された方との交流や、ビジネス課題の解決に向けたアイデアの提案を通し、

市長施政方針は、市公式YouTubeでご覧いただけます



▲スマートフォンで二次元コードを読み取ると動画を見れます

- 00:04 はじめに
- 06:26 市政運営方針
- 14:01 予算編成方針
- 16:00 市制70周年記念事業
- 19:37 市政戦略編
- 33:30 分野別計画編 (安全・環境)
- 37:10 分野別計画編 (健康・福祉)
- 40:38 分野別計画編 (教育・子育て)
- 44:27 分野別計画編 (文化・スポーツ)
- 47:26 分野別計画編 (産業・交流)
- 49:36 分野別計画編 (都市基盤・交通)
- 53:40 自治体経営編
- 01:01:47 令和7年度予算規模
- 01:05:32 結びに



小牧Walker を販売中



今までの“小牧市”のイメージを良い意味で裏切る、新しい小牧の魅力をお届けする観光情報誌で、市内外問わず楽しんでいただける内容です。市PR隊長の井戸田潤さんと山下市長の対談も掲載しています。



学生の自己探求や起業家に必要とされるスキルやマインドセットを学ぶ機会を提供します。

中学生が議員となり、実際に市議会の本会議場において質疑や提案を行う「こども議会」を開催いたします。前回の市制施行60周年でも開催し、この議場での生徒の提案が元となり、市民参加の「笑顔でさががけあいさつ運動」が地域を巻き込んだ形で現在まで展開されています。生徒にとっては、市政や議会の仕組みを学ぶ機会、また、自らが考えた提案を発表する機会になるとともに、大人にとっても、若い世代の視点からの貴

重な意見を得られる場になるのではないかと期待しております。小牧市民まつりにつきましても、従来のイベントに加えて、市制施行70周年の特別企画を検討中でありますので、ご期待いただきたいと思います。

加えて、この市制施行70周年を記念した「市民企画事業」として、応募いただいた市民団体が主体となつてそれぞれ特色ある事業を企画・実施していただく予定です。この70周年を盛り上げ、彩りを添えていただきます団体の皆様にご心より感謝申し上げます。

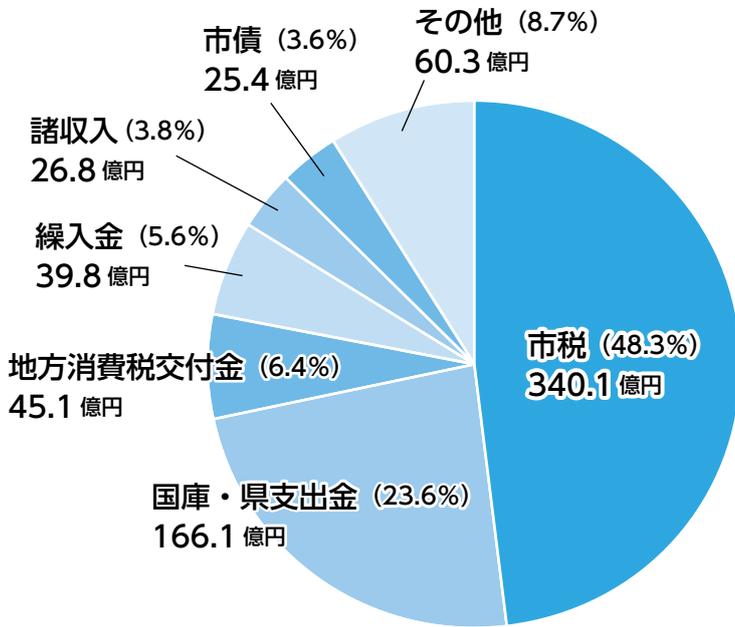
重な意見を得られる場になるのではないかと期待しております。小牧市民まつりにつきましても、従来のイベントに加えて、市制施行70周年の特別企画を検討中でありますので、ご期待いただきたいと思います。

財政運営

これまで本市は、堅調な市税収入に支えられて全国でも屈指の健全財政を維持してまいりましたが、少子高齢化の進行、社会保障関連経費の増加、および国の施策による支出の増加などにより、健全性は保ちつつも厳しさを増す状況については、毎年施政方針の中で強く危惧している旨を申し上げてまいりました。人件費の上昇や物価高騰に伴う委託料の増加、高齢化の進行や福祉の多様化に伴う扶助費や繰出金等の増加は今後も続くことが見込まれ、経常的経費の上昇は続くものと考えております。加えて、学校等の施設整備費や、施設老朽化に伴う大規模改修費用の増加などにより、財政需要はさらに高まっていくことが見込まれます。

増加が見込まれる歳出に対して、それを賅う歳入の根幹である市税収入につきましては、景気変動に伴う一時的な好転

一般会計の歳入



歳入予算の特徴

- 市税収入が、対前年度当初比 4.7% 増となりました。
⇒個人市民税および固定資産税を増収と見込んだことなどによる
- 国庫支出金が、対前年度当初比 47.6% 増となりました。
⇒児童手当交付金や物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増などによる
- 寄附金が、対前年度当初比 82.9% 増となりました。
⇒こまき応援寄附金の増などによる
- 諸収入が、対前年度当初比 55.5% 増となりました。
⇒消防指令センター共同運用事業負担金の増などによる

やインフレによる名目的な増加はあっても、人口減少や少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少などを考えると、今後大きな伸びは容易に期待できないところです。

社会保障関連経費の増加は、高齢化の進行に伴う医療費の増加や、国民健康保険制度の構造的な問題などを背景としており、人口規模や年齢構成などにより影響額に差はあるものの、全国共通の課題であります。

また、近年の国の施策に伴う事業の中には、地方への財源措置を交付税措置としている事業が多数あります。こうした事業の実施にあたっては、普通交付税の不交付団体である本市は一般財源を投入せざるを得ない状況であり、財政の硬直化が進む大きな要因となっております。

これらの問題は、一地方自治体である本市のみで解決できるものではなく、本市としては、国に対して、全国市長会など様々な機会を捉えて、状況の改善に向けて強く働きかけを行っているところであります。

社会保障関連経費の増加や人件費の上昇、さらには近年の制度改正や国の政策などにより、普通交付税の不交付団体である本市の財政状況は、急速に余力を失いつつあります。



令和7年度 小牧市の予算

一般会計

703億5,600万円

(前年度比 12.7%増)

特別会計 282億4,778万円 (前年度比 1.2%減)

企業会計 385億4,857万円 (前年度比 2.6%減)

全会計合計 1,371億5,235万円 (前年度比 5.0%増)

一般会計の歳出

商工費 (4.2%)

29.8億円 商工業や観光の振興などの費用

消防費 (4.3%)

30.1億円 消防などの費用

衛生費 (9.4%)

66.3億円
健康診断や予防接種、
ごみ処理などの費用

税務事務、選挙、
統計調査、公共交通
などの費用

総務費 (10.1%)
71.1億円

道路・公園の補修や建設
などの費用

土木費 (11.7%)
82.2億円

小中学校の管理運営や施設整備
および文化・スポーツ振興などの費用

教育費 (14.9%)
104.5億円

その他 (2.6%)

18.2億円 議会費・農林費など

民生費 (42.8%)
301.4億円

こども、高齢者、障がい者の
福祉などの費用

歳出予算の特徴

- 民生費が、対前年度当初比 15.6% 増となりました。
⇒児童手当支給事業の増などによる
- 消防費が、対前年度当初比 40.7% 増となりました。
⇒消防指令センター共同運用事業の増などによる
- 教育費が、対前年度当初比 8.7% 増となりました。
⇒米野小学校改築事業の増などによる



このように、歳入の根幹である市税収入の見通しは厳しい一方で、経常的経費の増加は続く見込みであり、財政状況が今後さらに厳しくなる見通しの中で今後も力強く市民の生活をお支えしていくためには、行政改革のスピードをさらに上げていく必要がありますが、効率的・効果的な行政運営への改革の中には市民サービスの向上に逆行する部分もあり得ることから、市民の皆様の一層のご理解を頂戴しつつ、将来の小牧市に必要な事業について選択と集中を加速し、より効果の高い財源配分とともに、財政状況の改善に取り組んでいかなくてはならないと考えております。

令和7年度の主な事業

安全 ・ 環境

災害時の体制強化

- ・大規模災害が発生した際に災害ボランティア支援センターを市民会館に開設できるよう通信回線等の整備を実施



地域防犯カメラ等設置費補助金

- ・道路などの公共空間を撮影する防犯カメラを設置する区を対象に交付する補助金を大幅に引き上げ



生ごみ処理機器購入費補助金

- ・令和7年度限定で、補助率・限度額を大幅に引き上げ

【生ごみ処理機】

補助率：70% 上限額：70,000円

【堆肥化容器】

補助率：70%
上限額：7,000円



新 燃やすしかないごみ (分別がなかったけどこれ以上はリサイクルできないごみ)

- ・燃やすごみの名称を変更
- ・指定袋をバイオマスプラスチック原料配合の環境負荷を軽減するものへ変更



消防団車庫の建設

- ・消防団第2分団の車庫を大字西之島地内へ移転
- ・敷地内に耐震性の防火水槽を設置



再生可能エネルギーの普及促進

- ・自治体で全国初の廃棄物コーディネーター、再生事業者、電力供給会社と市の4者で締結した「食品リサイクルを中心とした脱炭素化及び資源循環の推進に関する連携協定」に基づき、市内での食品リサイクルの推進およびごみの減量化をするとともに、電力の地産地消を推進



カーボンニュートラルの実現

- ・市内の温室効果ガス排出量を削減するため、公共施設の照明をLED照明へ更新
- ・市内の住宅等に再生可能エネルギーなどを導入する市民に対し、設置費用の一部を補助



健康

コラム

「ヘルスラボ・こまき」で健康づくり

こどもからシニア世代まで、それぞれのライフステージにあった健康づくりやフレイル予防を推進します。



環境

コラム

7年連続リサイクル率 第1位 (県内38市のうち)

剪定枝のリサイクルやこども服リユース事業などの施策に積極的に取り組んでいます。また、令和6年4月から資源としてプラスチック製品を回収するなど、更なるごみの減量化に努めます。



新 5歳児健康診査の実施

- ・新たに5歳児を対象に、成長・発達等を保護者と確認し、特性に合わせた適切な支援が受けられるよう健康診査を実施



帯状疱疹予防接種費用の助成

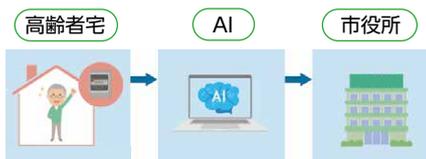
- ・65歳の方を対象に定期接種を開始（経過措置として65歳以上の方は段階的に対象）
- ・50歳以上の方を対象にワクチン接種費用を助成



健康 ・ 福祉

新 eフレイルナビの導入

- ・スマートメーターの電気使用量をAIが分析し、フレイルリスクの高いひとり暮らし高齢者を検知



▲ eフレイルナビの流れ

不妊不育治療等の助成

- ・一般不妊治療、不育症治療の助成に加え、新たに生殖補助医療に要する費用を助成

【各助成の上限額】

一般不妊治療助成：年 50,000 円

新 生殖補助医療助成：

1回 100,000 円（条件あり）

不育症治療助成：

1回 150,000 円

新 電子カルテ・健診予約システムの整備

- ・乳幼児健康診査で使用するカルテの電子化とWEB予約・問診システムを構築



第20回アジア競技大会の準備

- ・令和8年秋に開催予定の第20回アジア競技大会のバレーボール競技会場となるパークアリーナ小牧の改修工事を実施



文化 ・ スポーツ

新 介護支援専門員の確保

- ・介護支援専門員に対し資格取得や資格維持に必要な研修受講料を負担した市内の事業者へ、負担額を補助



新 南スポーツセンターの改修

- ・夏場の武道館に冷風機を設置
- ・屋外トイレの和式便器を洋式便器に改修



第60回全国史跡整備市町村協議会大会の開催

- ・史跡名勝や天然記念物、重要な文化的景観を有する全国600を超える自治体で構成される協議会の全国大会を愛知県内で初めて開催



史跡小牧山の整備

- ・史跡小牧山主郭地区において歴史館南東側の石垣を復元する史跡整備を実施



令和7年度の主な事業

教育 ・ 子育て

新 小中学校の体育館 空調機設置

- 市内小中学校の体育館にリース方式で空調機を設置



設置空調機のイメージ写真▶

学習支援「駒来塾」の充実

- 十分な学習環境に恵まれない中学生を対象に、元教員などのボランティアの協力を得て、学習支援を実施
- 新たに南部地区に1教室を開設し、市内5地区で学習支援を実施



保育園の受入枠の拡充

- 令和7年度開園を目指し、中部地区に小規模保育事業所を3施設整備
- 令和8年度開園を目指し、北部学校給食センター北側に私立保育園を整備



ひとり親家庭の支援

- 養育費の取り決めにかかる費用の助成に加え、養育費請求に関する弁護士費用も一部助成



出会い・結婚支援

- 結婚を希望する方の出会いの機会づくりを目的としたイベントの開催
- 結婚にかかる経済的な不安を抱える若年世代に対して、一定の所得以下の新婚世帯を対象に支援



新 高校生等の社会参画の推進

- 高校生等が身近な課題や関心事についてプロジェクトを立ち上げ、意見表明や社会参画を通して地域や社会に主体的に関わる意識を醸成



新 学校再編の推進

- 篠岡地区、北里地区、巾下地区の3地区において、地区別の学校再編計画を策定
- 学校施設整備のための基本構想・基本計画を策定



(仮称) 第一こども園の建設

- 第一幼稚園の解体工事および(仮称)第一こども園の建築工事を実施

第一幼稚園の仮園舎▶



定住促進の支援

- 若年層の定住を目的に定住促進奨励金をこまきプレミアム商品券で給付



乳児健康診査の充実

- 生後1か月頃の乳児を対象に、発育状況や栄養状態・身体異常の早期発見等ができるよう健康診査を充実



米野小学校の改築

- 米野小学校の改築工事を実施



企業新展開支援プログラムの推進

- ・小牧市企業新展開支援プログラムに基づいた産業振興施策を推進
- ・知的財産権の取得にかかる費用、人材育成のための研修費用、求職マッチングサイトへの登録料等の人材確保のための費用に対する補助を拡充



「STATION Ai」への入居

- ・名古屋市鶴舞にある国内最大級のスタートアップ企業とのオープンイノベーションを促進する支援拠点である「STATION Ai」に「小牧市」と「こまき新産業振興センター」が入居
- ・市内の事業者とこれから起業しようとする方々が、より一層発展するための支援を行う



産業 ・ 交流

姉妹都市・友好都市との交流

- ・市制 70 周年記念式典に各都市の皆さんを招待
- ・グラント郡への中学生派遣、ワイアンドット市からの中学生受入を実施



(仮称) 小牧市農業公園の整備

- ・公園等整備工事および建築工事の実施設計等を実施



こまきプレミアム商品券の発行助成

- ・商工会議所が実施するこまきプレミアム商品券発行事業に補助
プレミアム率：20%
発行総額：14 億 4,000 万円



東部まちづくりプラットフォームの推進

- ・ワークショップやセミナーなどの開催により、さまざまな主体がつながる場を創出し、トライアル活動を実施
- ・事業者などがまちづくり活動を支援できる「東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度」を実施
- ・より実効性のある「東部振興構想」とするための中間見直しに着手

自動運転の実証調査

- ・バス型車両を使用し、自動運転の実証調査を「こまくる」の運行ルートを走行して実施



都市基盤 ・ 交通

こまき巡回バス「こまくる」の運行

- ・令和 8 年 4 月に予定している再編運行に向けて、バス停時刻表の張替えなどの準備を実施



北西部地区公園の整備

- ・事業用地の取得および道水路工事を実施



小牧山東公園の整備

- ・6 月頃の供用開始に向けた「こまき山イーストパーク」(小牧山東公園)の整備



令和7年度の主な事業

デジタルデバイドの解消

- 誰もがデジタルによる情報を受け取れる環境を目指し、市内各公共施設等でスマホ教室や個別相談会等を開催



新 市公式 LINE に デジタル市役所窓口を開設

- 市公式 LINE アカウントから申請手続きフォームに簡単にアクセスできる「デジタル市役所窓口」を開設
- オンライン申請システムにマイページ機能やキャッシュレス決済機能を追加



自治体経営

新 電話交換機のクラウド化

- 庁舎内に設置されている電話交換機をインターネットを介して電話機能を利用するクラウドシステムに更新
- 電話機をスマートフォンに更新し、庁舎外での業務にも迅速に対応
- 自動ガイダンス機能やカスタマーハラスメント対策となる全通話録音機能などを追加

コンビニ交付の促進

- コンビニ交付のメリットを体感できるように市役所にコンビニと同様のマルチコピー機を設置
- 証明発行窓口の混雑緩和



新 業務効率化ツールの導入

- システム構築を内製化できるシステムを導入し、業務効率化やシステム開発に係る費用を削減



結びに

私は小牧市長として、小牧市の将来を見据え、子どもが健やかに夢を育み、高齢者をはじめ誰もが安心して暮らせる小牧市、若い世代や子育て世代が住みたい、子や孫も住み続けたいと思う、魅力と活力あふれる夢ある小牧市を創造してまいりたい所存であります。

市制70周年を小牧市への愛着と誇りを醸成する機会とするともに、こまきに関わるすべての人がつながり、市制100周年に向かって持続する小牧市の創造へと、皆様と心を一つにし、ともに更なる挑戦の一步を踏み出すことのできる素晴らしい年となるよう、記念事業をはじめ各種事業を皆様とともに実施してまいります。

議員各位、並びに15万市民の皆様をはじめ、小牧市に関わるすべての方々と力を合わせて、小牧市の明るい未来につながる更なるチャレンジと、市民の幸せのための市政運営に、決意と信念を持って、引き続き全力で取り組んでまいります。

小牧市政の推進に、皆様の格別のご理解とご支援をお願い申し上げます、私の施政方針といたします。



問合せ 秘書政策課 (☎ 76 - 1105)、財政課 (☎ 76 - 1190)